

水桜だより



かどましりつすいおうしょうがっこう
門真市立水桜小学校
れいわねん(2026年)3月
こうちょうみむらやまひさ
校長 三村 泰久
にちほつこう
日発行

SUIO
3月特別号



12月に実施した「学校教育自己診断アンケート」の結果と分析を掲載しております。皆様のご協力、本当にありがとうございました。この結果も踏まえながら、本校の教育活動が、より充実し、より子どもたちの成長につながるよう、今後も努力してまいります。

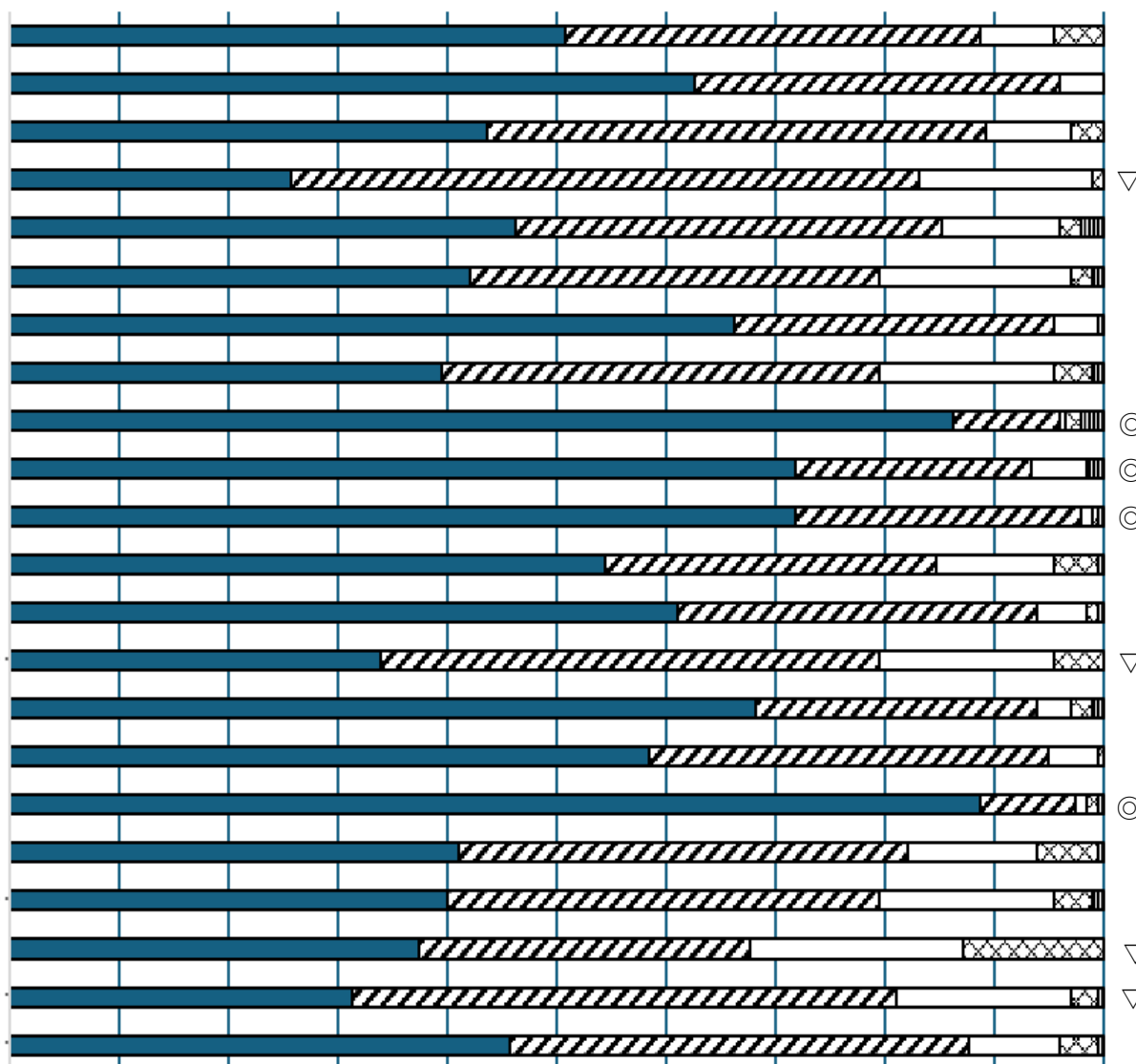
「よくあてはまる」の割合 (%)

70%以上→◎ 40%以下→▽

児童アンケート結果

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%

1. 学校に行くのは楽しい。
2. 先生たちは私たちの考えや意見を大切にしてくれる。
3. 授業で学ぶことは楽しい。
4. 授業では色々な問題に対して、自分で考え、自分から取り組んでいる。
5. 授業では自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある。
6. 授業で分からないことについて、先生に質問しやすい。
7. 先生たちは、自分が努力したことを認めてくれる。
8. 先生たちには色々なことを相談しやすい。
9. いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。
- 10.先生たちはいじめや差別があった時、どう行動すればよいか教えてくれている。
11. 先生たちはいじめなど私たちが困っていることに真剣に対応してくれる。
12. 担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生や学校の職員の方がいる。
13. 先生たちが話すことや注意してくれることは納得できる。
14. 大人になった時の職業(仕事)について考えたり、そのために今どんな努力が...
15. 外国語(英語)の授業は楽しいと思う。
16. 授業ではパソコンを使って自分のペースで学ぶことができる。
17. 自分の命も他の人の命も、何よりも大切でかけがえのないものだと思う。
18. 自分にはよいところがあると思う。
19. 失敗することを恥ずかしく感じたり、うまくいかないことを怖がりせず、...
20. 本(雑誌やマンガはのぞく)を読むことは楽しいと思う。
21. わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、...
22. 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、活かしたりす...



■よくあてはまる □ややあてはまる □あまりあてはまらない □全くあてはまらない ▨無回答

【児童アンケートの結果から】

《全体的に見て》

最も注目した項目は「18. 自分には良いところがある」です。「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせると82.0%で、昨年度比で7.5%ほど、この2年で20%ほど向上しました。地域や家庭で「結果」だけでなく、子どもの頑張る「過程」に声をかけていただいていることも要因の一つと考えます。「主体的に学ぶ力」を付けるためには、ありのままの自分を好意的に受け止めるいわゆる「自己肯定感」が最も重要な要素となります。学校では今後もあらゆる教育活動の中で「子どもの主体的な学び」を意識して取り組んでまいります。学校・家庭・地域で連携しながら、子どもの「自己肯定感」を育てなければと思います。

その他の項目について、今年度は「よくあてはまる」の割合に注目して分析しました。肯定的回答（「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせた割合）としては多いものの、「よくあてはまる」の割合が大事だと考えています。

◎「よくあてはまる」が高い項目（70%以上）

- 「9. いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」 86.2%
- 「10. 先生はいじめや差別があったとき、どう行動すればよいか教えてくれている」 71.8%
- 「11. 先生たちはいじめなど私たちが困っていることに真剣に対応してくれる」 71.8%
- 「17. 自分の命も他人の命も、何よりも大切にかけがえのないものだと思う」 88.7%



いじめや差別、命の大切さ、集団生活でのルールなど、学校ではいろいろな場面で大切なことを指導しています。今回のアンケートではいじめや差別に関する項目で「よくあてはまる」が高くなっています。「ややあてはまる」を合わせるとほぼ100%に近い数値です。しかし普段いじめや差別がいけないことだと思っても、いじめや差別事案が起きます。特に秘匿性の高いSNSでの事案が大きな問題となっています。子どももそして我々大人もアンテナを高く張り、いじめや差別を許さない社会を目指します。また必要に応じて外部機関の協力も得ながら、子どもたちの命を守る教育活動を進めてまいります。

▽「よくあてはまる」が低い項目（40%以下）

- 「4. 授業ではいろいろな問題に対して自分で考え、自分から取り組んでいる」 25.6%
- 「14. 大人になったときの職業について考えたり、そのために今どんな努力が必要かを考えたりする機会がある」 33.8%
- 「20. 本（雑誌やマンガはのぞく）を読むことは楽しいと思う」 37.4%
- 「21. わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる。」 31.3%



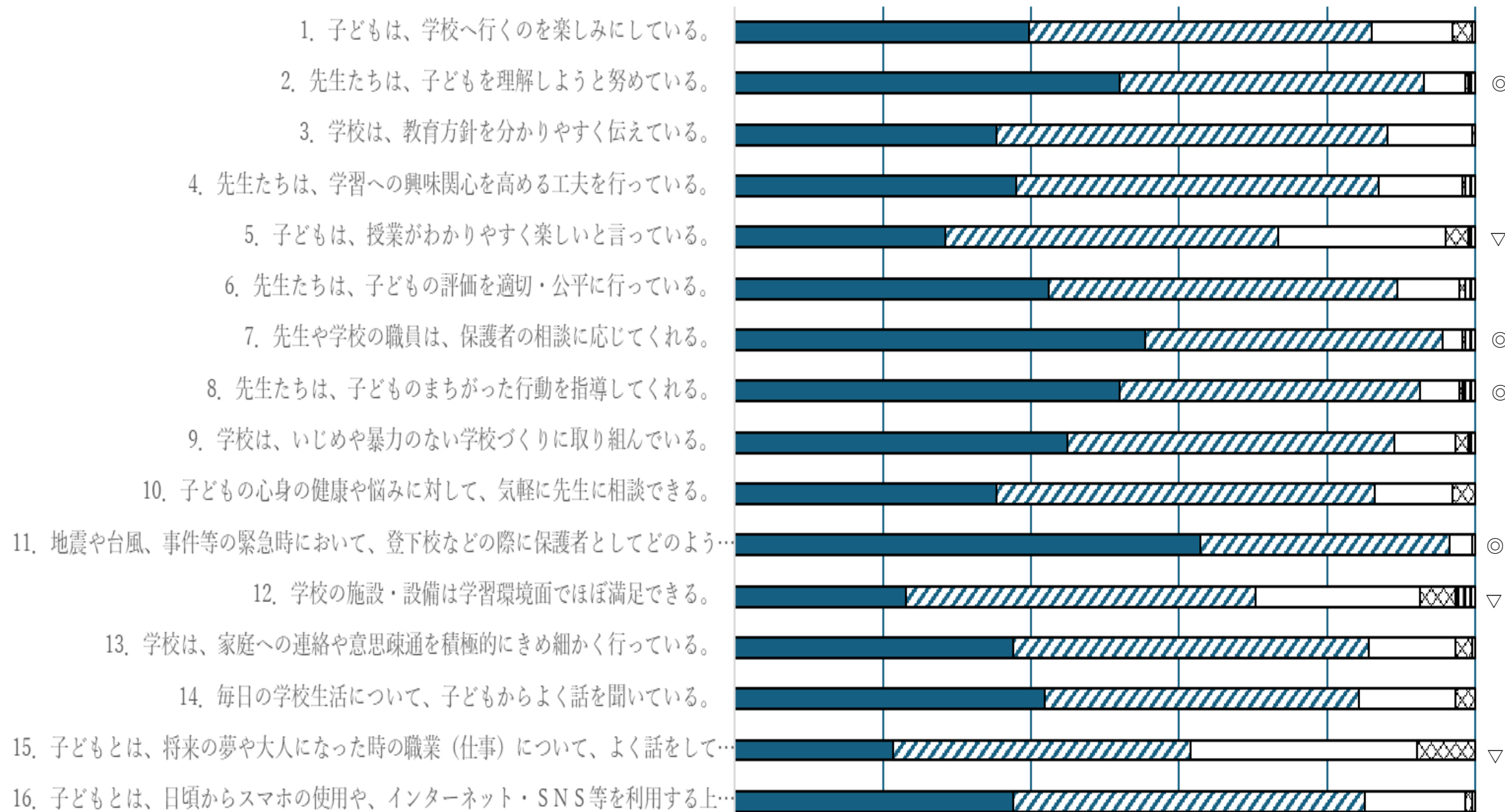
「よくあてはまる」の割合が低い項目は上記の4点でした。特に項目4は「子どもの主体的学び」を進めるうえで、重要な指標の一つです。この結果をあらゆる教育活動において意識しつつ改善を目指します。また、項目20の読書については新しい水桜学園で環境も変化します。今以上に子どもたちが本に触れやすくなることで、「知りたい、調べたい」ときにいつでも本を手にとれる環境に近づきます。これは項目21にも影響します。本に触れる機会を増やす取組を今後も進めます。

保護者アンケート結果

「よくあてはまる」の割合 (%)

50%以上→◎ 30%以下→▽

0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 100.0%



■よくあてはまる ■ややあてはまる □あまりあてはまらない ■全くあてはまらない ■無回答

【保護者アンケートの結果から】 《全体的に見て》

全体的な数値は昨年度から大きく下回るようなことはありませんでした。また「よくあてはまる」の数値から見る特徴は以下の通りでした



◎「よくあてはまる」が比較的高い項目（50%以上）

- 「2. 先生たちは子どもを理解しようと努めている」 52.0%
- 「7. 先生や学校の職員は、保護者の相談に応じてくれる」 55.5%
- 「8. 先生たちは、子どものまちがった行動を指導してくれる」 52.0%
- 「11. 地震や台風、事件等の緊急時において、登下校などの際に保護者としてどう動けばよいか、適切に周知されている」 62.9%

子ども理解は教職員として最も必要な視点です。今後も子どもの話をしっかり聞いたうえで、丁寧かつ毅然とした指導を行うよう努めてまいります。事案によっては事実関係の把握が難しいケースや、聞き取りに時間がかかることもあります。可能な限り適切かつ迅速に対応できるよう、職員間で情報共有し組織的に子どもを見守る意識を高めます。また外部の関係機関との連携も積極的に行ってまいります。

保護者の方からの相談に対しては、傾聴する姿勢を忘れずに今後も対応してまいります。必要とあれば外部の相談機関と繋ぐような支援も行ってまいりますので、お子さんのことや子育てで気になる点がありましたら遠慮なく学校までご相談ください。

非常時の連絡についてはテトルの活用がずいぶん定着してまいりました。非常時児童引き渡し訓練は、保護者の皆様の協力もあってスムーズに行われ、大変貴重な訓練機会となりました。このような経験もあって、今年度の学級閉鎖時にも大きなトラブルなく対応することができました。ありがとうございます。

▽「よくあてはまる」が低い項目（30%以下）

- 「5. 子どもは、授業が分かりやすく楽しいと言っている」 28.4%
- 「12. 学校の施設・設備は学習環境面でほぼ満足できる」 23.1%

子どもたちの自己肯定感は徐々に上昇してきました。しかし5の設問は昨年度に引き続き低い値でした。「分かりやすく楽しい授業」とは教師が「わからせる」授業ではなく、子どもが「わかりたい・知りたい」という思考に繋がったときに成立すると考えます。基礎基本の学習は大事にしつつ、子どもの「知りたい」を刺激する授業を目指します。

施設・設備については4月より「水桜学園」に登校しますので、どこよりも新しくきれいな校舎で学ぶこととなります。まだ整備の終わっていないグラウンドなどについては、今後学年間で調整しながら使用していきます。ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

- 「15. 子どもとは、将来の夢や大人になった時の職業について、よく話している」 21.4%

自分の生き方やものの見方を、様々な経験を通して学ぶことがキャリア教育です。職業に限定せず、良いモデルケースとたくさん出会えるように、ゲストティーチャーを招いての授業や校外学習に積極的に取り組んでまいります。合わせて地域や企業と連携した取組を持続するために、四中校区学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を活用しながら子どもたちを取り巻く大人全体で子どもの育ちを支えていきます。